

平成26年5月11日、久しぶりに石巻市に行ってきました。門脇地区は震災3年にしてやっと野積されていた3.11の被災車が全て片付けられていました。

入江の防波堤復興工事も少しずつ進み、石巻港の沿岸防波堤は完成していました。

また多くの防波堤では釣り人の姿が目立つようになり明るい兆しを取り戻しつつあります。

一方、高台移転や復興住宅工事の取り組みは進み方にバラつきが多く未だに工事着手がいつになるか分からない地区が多いのです。

被災された皆さんは2間の仮設住宅に生活してから既に3年間経過しました。

仮設住宅を訪れてみて狭い空間と不便さそしていつまでこの生活が続くのか分からない不安感に思いをはせると胸が痛みます。

仮設住宅から出られる日が早くくることを願うばかりです。

本号は前号で掲載しきれなかった龍 JIN の活動を新聞記事中心に紹介します。また、最近の活動についても報告いたします。

変わらぬご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

復興工事が急ピッチで進む石巻市桃浦浜



5月11日鯉のぼり泳ぐ石巻市門脇地区 栃木県ガールスカウト連盟の皆さんと花壇づくり

地元那須烏山市岩子仮設住宅支援活動紹介記事

震災3年が経過。右新聞は栃木県唯一の岩子仮設住宅支援活動を私と曾根原仮設住宅自治会長にスポットを当て、どんな思いを大切にしながら活動してきたかを紹介した紙面1枚使用のとても大きな記事です。

全部を上手に紹介できない大きさのため次頁以降に分割して掲載します。読み辛い紹介で誠に申し訳ありませんが時間をかけて読み切っていたいただくとありがたいです。

施しでなく自立支援を大切にしたいとの思いを紹介してもらいましたがリーダーの曾根原勉自治会長のような素晴らしい人と知り合いになれたことが私の宝物であり感謝の気持ちでいっぱいになる活動でした。



3年間の支援活動を紹介する紙面1枚使用記事
平成26年3月7日読売新聞(詳細は次頁を参照ください)

栃木 TOCHIGI

購読、
北部
関連
広告
栃木

支局 〒320-0822 宇都宮市河原町 1-4 電話 028-638-4311 Fax 028-638-8300
 局 〒323-0807 小山市城東 1-7-30 電話 0285-22-0855 Fax 0285-23-1556
 局 〒321-1266 日光市中央町 1-6 電話 0288-21-2434 Fax 0288-21-4413
 支店 0284-41-2969 栃木通信部 0282-22-1150 佐野通信部 0283-22-1111
 支店 0285-82-2672 大田原通信部 0287-22-2115 那須塩原通信部 0287-62-2829

メールは utsunomiya@yomiuri.com へ

被災

那須烏山市には、県内で唯一の仮設住宅が設けられ、2013年5月までの2年間、最大で20世帯67人が住み、仮設暮らしを送った。入居者代表だった曾根原勉さんは、入所者を励まし続けた小堀道和さんたちの活動に触れ、自らボランティア団体の一員として、東北地方の被災地の支援活動に加わっている。

大震災
3年

つづく 絆

励まされ 励ます側へ

力強いメンバーが加わり、うれしいです。被災者だった曾根原さんだからこそ、生活再建に必要なものがわかるはずですよ。

今年3月2日、震災による土砂崩れで2人が犠牲となった那須烏山市神長に、復興のシンボルとして桜の木を植えた。そのとき開いた植樹式には、地元の子供も招いた。身近に起きた悲劇をきくと子どもたちに伝えたいと思った。その輪の中に曾根原さんもいる。いまや中核メンバーの一人だ。

ボランティア団体「チーム龍JIN」を設立したのは、震災から4か月後だった。震災後、宮城県石巻市にボランティアに入った。那須烏山からも同じように被

ボランティア団体「龍JIN」キャプテン

小堀 道和 さん 64 (那須烏山市)



災地に入ってがれき撤去に汗を流す人たちがいた。話すとすぐに意気投合した。当時、「被災地」と言えば、津波の被害を受けた東北地方と決めていた。会話の中で仲間がふと「私たちの街にも仮設住宅があるね」といって、地元にも目を向けるようになった。疲

夏祭りの企画を持ちかけた際に会ったのが、代表だった曾根原さんだった。初対面の私に、「みんなが元気になる手伝いをしたい」と言いましたね。どちらのセリフかと思いましたが、強い人ですね。

夏祭りでは、焼きそばや植樹式を前に、「龍JIN」のゼッケンに身につけあいさつをする小堀さん(2日、那須烏山市で)

施しではなく共に歩もう

仮設住宅の閉鎖は、入居者と支援団体、それぞれの代表者にとって節目だった。曾根原さんの寄り添う姿を見て、「自分はまだまだだ」と思う。一緒に活動をしてい

この連載は、岡本朋樹、市川大輔、増田政幸が担当しました。

おにぎりを仮設住宅に暮らす女性たちに作ってもらった。ボランティアは設置などの力仕事などに回った。那須烏山の仮設住宅の支援と並行して、東北の被災地でも活動していた。被災者の支援活動が長く続くと、被災者には「自分でもかきしよ」という気持ち

た。曾根原さんは妻のくみ子さんと暮らすバリアフリーの新居に移ると、まもなく、「龍JIN」に加わりたい」と申し出た。心強い仲間になると確信し、二つ返事で引き受けた。昨年11月には、曾根原さんを連れて石巻市を訪れ、春に手入れをした花壇にユリッパなどの球根を植えた。曾根原さんは、地元の仮設住宅の住民の話にじっと耳を傾けていた。

震災後のかわり

2011年3月	曾根原さんの自宅が地震で全壊
5月	那須烏山市岩子に仮設住宅が設置され、曾根原さんが代表に
7月	小堀さんが「龍JIN」設立
8月	仮設住宅で「復興岩子夏祭り」を開催
12年 5月	仮設住宅入居1周年の記念式典を開催
13年 3月	小堀さんらが震災2年の集いを開催。パネリストの曾根原さんが復興の現状を伝えた
5月	仮設住宅閉所。新居に移った曾根原さんが龍JINのメンバーに加わる
11月	曾根原さんがボランティアとして初めて石巻市を訪れる
14年 3月	震災3年の集いを22日に開催予定。宮城県南三陸町の高校生が講演する

▲那須烏山市の仮設住宅で行われた夏祭り(2011年8月) 小堀さん提供



木

購読、配達

北部読売会 028-638-6300 Fax 028-636-0550 南部読売会 0285-30-2343 Fax 0285-21-4341

関連会社

広告 028-635-1261 折込 028-612-2015 旅行 028-624-8181 文化センター 028-636-1818

栃木より編集部 028-638-5200 栃木南部よりタイムス編集部 0283-85-8743

被災経験生かし 自立支援

仮設住宅の入居者代表

曾根原 勉さん 65 (那須烏山市)

昨年11月、ボランティアの一員として訪ねた宮城県石巻市の仮設住宅には、生活再建のメドがついた入居者と、退去後の人生設計がでない被災者とが混在していた。自分が仮設住宅で暮らした5月までの2年間で、状況はよく似ていた。

仮設住宅の人たちは「求めているのは、次の生活につなげる支援です」と言っていました。小堀さんの活動も、いつも我々の「自立」を助けてよとしていましたね。

仮設住宅の人たちは「求めているのは、次の生活につなげる支援です」と言っていました。震災の年の夏、祭りの企画が舞い込んだ。小堀さんたち「チーム龍JIN」からの提案だった。案の定、「祭りなんかやっ

わらないだろう」と、批判的な意見が出た。入居者はいつも、生活の不安にさいなまれていました。「せめて、子どもやお

年寄りを元気にしよう」として説得してくれましたね。その通りだと思いました。私も、祭りの時だけは震災のことを忘れられました。



土砂崩れの現場で植樹する曾根原さん(2日、那須烏山市で)

那須烏山市には、県内で唯一の仮設住宅が設けられ、2013年5月までの2年間で、最大で20世帯67人が慣れない仮設暮らしを送った。入居者代表だった曾根原勉さんは、入所者を励まし続けた小堀道雄さんたちの活動に触れ、自らボランティア団体の一員として、東北地方の被災地の支援活動に加わっている。

大震災
3年

つづく 下



震災後のかわり

2011年 3月	曾根原さんの自宅が地震で全壊
5月	那須烏山市岩子に仮設住宅が設置され、曾根原さんが代表に
7月	小堀さんが「龍JIN」設立
8月	仮設住宅で「復興岩子夏祭り」を開催
12年 5月	仮設住宅入居1周年の記念式典を開催
13年 3月	小堀さんらが震災2年の集いを開催。パネリストの曾根原さんが復興の現状を伝えた
5月	仮設住宅閉所。新居に移った曾根原さんが龍JINのメンバーに加わる
11月	曾根原さんがボランティアとして初めて石巻市を訪れる
14年 3月	震災3年の集いを22日に開催予定。宮城県南三陸町の高校生が講演する

▲ 那須烏山市の仮設住宅で行われた夏祭り(2011年8月)
■ 小堀さん提供

祭りをきっかけに、交流がほとんどなかった入居者同士が、互いに助け合うようになった。ごみ集積所の清掃当番も決められるようになった。その年の12月には仮設住民と龍JINが共同で「感謝の集い」を開催。もっぱら「支援される側」だった自分たちが、ボランティア団体の活動に触れ、変わってきたと感じた。

ただ、生活再建の歩みはさまざまだった。自宅を改築したり、アパートを見つけたらして、入居者が減る中でも、閉鎖の先延ばしを求める声はあった。

入居者代表として、「この先の復興へと進むには、けじめが必要だ」と思いました。小堀さんも同じ思いでした。

「被災者」として講演しました。今回は、東北地方の被災者の思いを私が精いっぱい聞き出します。「次の生活」につながる支援をしたいから。

石巻市門脇地区でコンサート

5月11日、栃木県那珂川町の岡倉ゆかりさんと栃木県ガールスカウト連盟との共同で門脇地区尾形さんの焼きそば味平さんの前で岡倉ゆかりコンサートを実施しました。

岡倉さんは平成23年11月に歌声教室の先生として石巻市鮎川小仮設住宅を訪れて現地の皆さんに元気と笑顔をお届けしました。

その後も再訪問を強く望んでいましたが、今回やっと実現しました。総勢28名で花壇活動を実施後、岡倉さんのリードで門脇の真っ青な空に向かって歌声を響かせました。門脇地区の参加者が飛び入りで歌っていただいたり尾形さんが思い出の石原裕次郎の曲を歌ったりと暖かな雰囲気の中で時間が過ぎて行きました。

尾形さんから「中々復興の道筋が決まらなく心が滅入ってしまう状況の中、このようなプレゼントを実施していただき本当にありがとうございました」と挨拶されました。

各学校の花壇の様子

昨年11月に子どもたちと植えたチューリップやビオラが咲き誇っていました。高台移転のための工事日程が具体的に決まらないため暫くは花壇活動を続けられそうです。

門脇地区では当初50軒弱が高台工事終了後戻りたいと意思表示していましたが、最近の希望調査では17軒のみに減少していて時間と共に益々減るのが現実だそうで、尾形さんの「本当に寂しいよな」の声を聞くにつけ、ずっと応援部隊でいなければと改めて思いました。

6月には各学校に呼びかけて夏秋用の花壇活動を実施する予定です。門脇地区の多くの皆様の「こんなに綺麗な花を咲かせてくれてありがてえな」とつぶやいてくれる声がずっと私の耳に残っています。子どもたちには優しい暖かな心がいっぱい育てて欲しいと願いながら計画を進めたいと思います。

各学校の花壇の様子～綺麗に花が咲き誇っていました



真っ青な青空のもと、岡倉さんのコンサートの様子



これからも私たちの活動を暖かな気持ちで応援してください。